

# コラム <途中下車>

武井 豊

Gicho Business Communications より転載許可済み

XX

## No.45 見学中に必ずトイレ？

(エレクトロニクス実装技術 1998 年 6 月号)

今回は実装関係の調査方法についてのちょっとしたテクニックについて紹介しよう。実装関係で、日本国内での工場見学で同業であれば、なかなか見ることは難しいのではないかとと思う。その場合には海外の企業と仲良くなってお互いに見せ合う仲になればしめたもの。

海外の工場を見学すると考え方の違いが分かったり、意外とヒントになることもあったりして、お互いに切磋琢磨できるメリットもある。

さて、見学するには色んな方法があるかと思う。展示会などに合わせての調査団や訪問団の一員として参加するのが最も楽な方法ではないかと思う。展示会や学会などで海外の企業の方と面識になって仲良くなっていれば、次回の訪問の機会には単独で訪問が可能になるのではと思う。

筆者の場合は、調査団に参加しての訪問ではなく、最初から直接、海外の企業と交渉して自分で訪問日程を作成した。そして実装関連で、海外の企業を訪問して調査をしたことがある。

筆者は 1970 年代の後半に初めて海外の企業を訪問する経験を得た。それ以降、様々な形で海外の企業に訪問する機会を得た。

しかも大半が一人での訪問であり、二人以上での訪問の経験は殆どない。訪問して調査するにも段々とコツを得るようになった。まず、困ったのが英語で次から次へと話されて、内容を把握するのに大変であった。工場の生産性に関係するようなデータなどは単位が異なるために聞き取った上で、単位を換算してから理解すると言うような作業をしているために、どうしても説明のスピードについていけない。

一旦、海外に出て調査すると数社、訪問することになる。似たような会社を訪問するので時差ぼけも手伝って記憶が曖昧となり、情報をまとめる段階で間違える場合がある。

過去、調査した中で 3 週間で 27 社の方と面談して情報交換をしたことがある。これが、過去最高の駆け足の訪問であった。

筆者は学生時代に普通運転免許と取ったが卒業以来、ペーパードライバーで一度目の更新はやったものの二度目の更新は忘れてしまい、失効してしまった。海外に訪問して一番困るのは空港に降りてからの交通である。空港から 150km 以上も離れた会社を訪問する必要がある場合に、まず、困るのが足の便。大抵は電車などの交通の便がなく、車のみ。

これも長年、海外の企業を訪問して経験を積むと足の便がなくても訪問先の企業に予めそれとなく訪問方法を質問して準備をしておくことである。そうすれば海外の良いことは大抵の場合、訪問先の企業で便を図って貰えるのである。

さて、運良く訪問先に問題なく到着すれば、今度は工場見学である。語学に問題がなければ、なにも心配がないが慣れない単位で説明を受けてもピンとこないのが常である。ここで筆者が考えたのが見学中の説明を全てテープレコーダーで録音をする手法である。最初の頃は、許可を得て録音をしたものの工場説明者のレベルによっては「上司の許可を得ないと出来ない」とのつれない返事が大半であった。テープレコーダーも超小型のマイクロカセットが商品化され、ポケットや胸ポケットにもいれることができるようになって、こっそりと胸ポケットに忍ばせて録音が出来るようになったのである。この分野ではオリンパスが超小型のマイクロカセットのテープレコーダーを開発し、その後、ソニーや松下電器等が商品化をした。恐らく表面実装技術を駆使しての実装ではなかったかと想像される。

筆者が使用した小型のテープレコーダーは、まだ、オートリバース方式でないので片側のテープが全て使いきるとテープを入れ直す必要があった。

テープレコーダーはあくまでも筆者の語学力がないために補完するためのツールとして採用しただけであって、企業スパイもどきのことをやっているのではない。見学中にカセットテープがなくなり、そうなると、必ずといって良い程、工場内にあるトイレに入り込むのである。実は、トイレに入ったふりをしてテープレコーダーのカセットを A 面から B 面に交換して、録音出来る状態にして工場見学に続行するである。このようにして録音していくと、まとめる際に大変、重宝に活用ができるのである。

テープレコーダーを如何に使うかによって調査にも大きな威力を発揮するのである。さあ、次回の訪問の機会のある方には是非、検討してみてはいかが？